

# みつい病院便り 第32号

玉野三井病院

平成23年9月

〒706-0012 岡山県玉野市玉3-2-1 TEL:0863-31-4187 FAX:0863-23-2084  
URL:<http://www.harenet.ne.jp/tamano-mitsui-hp/> E-mail:[mitsuihp@mes.co.jp](mailto:mitsuihp@mes.co.jp)

## TSL 支援活動

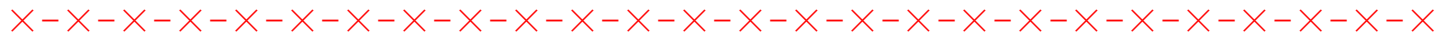
三井造船株式会社は、5月17日～5月31日の2週間、石巻市、宮城県、国土交通省のご協力のもと、宮城県の石巻港に三井造船保有の大型超高速客船（TSL：Techno Super Liner：全長140m 幅30m）を寄港し、東日本大震災で被災された皆様に食事、入浴、休憩などのサービスを無償提供いたしました。

この活動に当院の看護師2名が参加させていただきましたので、その活動報告を掲載させていただきます。

## TSL 石巻支援プロジェクト

今回私は、東日本大震災にて被害にあった宮城県石巻市での被災者支援プロジェクトに参加しTSLに一週間乗船しました。現地には新幹線、飛行機と乗り継ぎ仙台空港に到着しました。空港も津波の被害があり飛行機の離発着はできますが、まだ仮設の状態でした。道路は通行できるようになっていますが、信号は使用できず警察官が誘導、周囲はガレキの山で砂ぼこりがひどい状態でした。石巻までの道路は整備されておりましたが、倒壊した家々はそのままだ...ガレキや壊れた車の山を目にしました。行き場のないガレキの撤去に何十年かかるのだろうかと思いました。





TSLには三井造船のスタッフとJCI(青年会議所)のボランティアが乗船しました。私がTSLに乗船できたのは、船内に健康相談室をつくりそこに看護師を配置するためでした。「看護師としての能力に自信はないですが、健康には自信あり！」と志願しました。そんな感じですから、日々乗客の方への対応をしておりましたが看護師一人というのは少々心細いものでした。週末に東京より堂園医師の乗船があり一安心。乗客の方の健康もですが玉野市を5月14日に出向して以来、休日なく働く船員の皆さんにも鍼治療や栄養注射などしていただきました。堂園医師の滞在は一泊だけでしたが、その後も電話で指示をもらい医薬品も送ってくださり大変感謝しております。

船内の仕事は乗客の乗船下船手続き、船内の案内、掃除などをJCIのボランティアの方々と手分けをしておこないました。広い船内をなかなか覚えられず、むだに動き回るものですから余計に足が疲れしました。当初女性は私だけ...の予定だったのですが西葛西や本社からも急きょ応援にきていただきました。彼女たちがいなかったら、部屋に山積みされた支援物資の仕分けや部屋のセッティング、掃除にどうしようと初日から途方に暮れたと思います。東北支社からも休みを返上で応援にきていただき、元気をもらいました。

乗客の方々は生後3週間の赤ちゃんから高齢の方まで年齢層は広く、避難所で暮らす方・半壊した自宅の2階で暮らす方と

事情は様々です。皆さん明るく話をしてくださいました。しかし精神的に不安定な方、仕事や住居の問題など不安は山積みようです。3人の子供連れのお父さんは震災の時出張中で、子供達が生きている事が確認できるまで3日かかったそうです。「仕事もなくなり、家のローンも残った。でも子供が生きていてくれたから頑張れる。」と言われました。船内のサロンには三井造船の各事業所、玉野市から応援メッ



セージの寄せ書きや今回の企画に協賛した会社のリストがありました。それらを見た乗客の皆様からお礼のメッセージが書きたいとの申し出があり、メッセージコーナーを設置しました。「久しぶりに家族とテーブルでご飯を食べた」「まともな食器で食事ができた」「周りに気を使わずグッスリ眠れた」「石巻が元気になったら恩返しをしたい」「沈みかかった心を一気にふるいたたせてくれた」「明るい未来にむかって頑張ります」などたくさんのメッセージがあり、やりがいを感じました。

今回TSLでの活動に参加するにあたり協力してくださった方々に感謝いたします。



玉野三井病院 看護師 岩城清美





## 石巻被災者の TSL 支援プロジェクトに参加して

今年の3月11日東日本東北地方で大変大きな地震が起こり津波で大きな被害となり、テレビの映像をみて言葉がでませんでした。何かしたいと思っても、なにをどうしたらいいのかわからず、気持ちだけが空回りして、「東北は遠いなあ」と感じていました。

そんな時、三井造船のこのプロジェクトの話があり、船の中で健康相談室をつくり乗客のケアをするナースが必要になり「誰かいませんか？」と言うことで私でも何か出来ることがあればと思い参加させていただきました。私は、期間の後半で5/23～5/31までTSLに乗船しました。いつも設備の整った病院で医師の指示で仕事をしているのに船の中では、とにかく話に耳を傾け、ある物の中で何とかやりくりしながらの日々で不安でした。週末には東京から後藤医師が、乗船してくださり安心致しました。医師の来訪は、乗客より私のほうが「ホッ」としていたように思います。その他の日は、先週乗船された堂園医師も、電話で、相談し指示をもらい、度々宅急便で薬品を送っていただきどんなにありがたく、心強かったかと、本当に感謝しております。

毎日150人程の乗客を受け入れ食事やシャワーのサービスなど1泊2日の支援をさせていただき、その中で色々な話を沢山の方に聞かせていただきました。災害の後に生まれた小さな赤ちゃんから高齢者の方まで沢山の方に逢うことができ、今回私は大変貴重な体験をさせていただきました。

テレビのニュースや新聞などで、情報は入ってきていましたが、いざ仙台空港に降りたときは、想像を超えるひどさで直接現地に来なければ感じることはできないと思いました。

途方もないくらい瓦礫の多さ、砂埃や臭い、2ヶ月も経つのに消えたままの信号機、広場にズラッと沢山並んだ花、仮埋葬場と聞きあまりの多さに合わせた手が震えました。行方不明の方もまだ沢山いるそうです。



私が参加した後半は、台風も近づいていて、TSLスタッフもJCI(青年会議所)のボランティアの人たちもすごく緊張していたと思います。最後の日をどんな形でむかえるのか、毎日考えながら、悔いのないように最終日の乗客の方まで喜んでいただけるようにと、岡山県各地から寄せてくださった支援物資の仕分けをしながら、どのようにするのが一番よいのか考えていましたが、下船の時笑顔で感謝して帰られる方に元気をもらいました。

支援物資は多ければいい、何でもあったほうがいいと私は思っていました。しかし、届き方にも問題があり、届け後も仕分けを行なったり、分配を行なったりする人が足りないとか、支援物資を沢山配ると、地方で店をしている人達からは物が売れずに困るとか、公平さとか色々問題があり支援することの難しさも考えさせられました。

今、目の前にある当たり前前の生活がどんなに幸せか改めて感じる事ができました。自分も含めて一生懸命生きる事の大切さ、生かされている命、何か出来ることを探して一人一人が出来る事を隣の人と手を繋ぐように支援の輪を広げていけたらいいなあ・・・  
 と思います。今回プロジェクトに参加することができて本当によかったと思ひ、今回学んだことを今後の看護に活かしていけるよう参加できなかったスタッフへ伝達していきたいと思ひます。



玉野三井病院 看護師 伊藤 由美子

## —お知らせ—

薬についてのお問い合わせは、当院薬剤科（薬局）までお願いします。

ご入院ご転院の相談は、地域連携室までよろしく申し上げます。

TEL 0863-31-4187

FAX 0863-23-2081

### 病 院 理 念

地域に根ざし、誠意と確かな医療で、患者様に信頼され安心していただける病院。

### 基 本 方 針

1. 患者様のかかりつけとしてのお付き合いを念頭に責任を持って対応します。  
・健診とそれに基づく健康相談・救急を含めた急性期医療・療養を含めた慢性期医療・訪問診療を含めた在宅医療
2. 患者様の尊厳と権利を尊重し、患者様中心の医療を実践します。
3. 個人情報の保護と守秘義務の徹底を心がけます。
4. 全職員が研さんを積み、医療の質と安全について常に向上を目指します。

### 患 者 様 の 権 利 に つ い て

私たちは患者様の権利を尊重し、信頼関係を築き患者様中心のあたたかい医療の実践に努めます。

1. 患者様の意思を尊重し満足される医療を提供いたします。
2. 治療の説明を受け、選択や拒否ができるようにいたします。
3. プライバシーを尊重いたします。